

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成30年5月24日(2018.5.24)

【公開番号】特開2016-208080(P2016-208080A)

【公開日】平成28年12月8日(2016.12.8)

【年通号数】公開・登録公報2016-067

【出願番号】特願2015-83324(P2015-83324)

【国際特許分類】

H 0 3 K 17/08 (2006.01)

H 0 3 K 17/695 (2006.01)

H 0 2 M 3/28 (2006.01)

【F I】

H 0 3 K 17/08 C

H 0 3 K 17/687 B

H 0 2 M 3/28 T

H 0 2 M 3/28 C

【手続補正書】

【提出日】平成30年4月3日(2018.4.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 2】

先ず、ドライバ 2 からスイッチング素子 Q 2 をオンする電圧がスイッチングユニット 1 に入力される場合、即ちターンオン時について説明する。尚、ドライバ 2 の駆動電圧がローレベルであるオフ状態においても、スイッチング素子 Q 2 の出力容量が充電されているため、スイッチング素子 Q 2 のドレイン・ソース間電圧 V_{ds} は 0 V を上回る所定の電位を示している。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 8】

(その他の実施形態)

第 2 実施形態の構成に、コンデンサ $C_s 1$ を追加しても良い。

ダイオード D 1 ~ D 3 をツェナーダイオードにしても良い。また、ショットキーバリアダイオード D 3 を、ダイオードにしても良い。

ダイオード D 2 を、抵抗素子に置き換えても良い。

コンデンサ $C_s 1$ に並列に、抵抗素子を接続しても良い。

第 3 実施形態において、ダイオード D 3 は必要に応じて設ければ良い。また、第 1 及び第 2 実施形態の構成についても、必要に応じてダイオード D 3 を接続しても良い。